

カマ堰 1 の改修。2012 年に竣工後、4 回の改修を経て現在に至る。改修ごとに堰長・堰幅（越流線）が伸び、極めて安定している。弱点は巨礫で造成される砂吐きで、夏の激流に抗し得ないことだ。土砂吐きが乱れると、冬の低水位期に必要な水位が得られないことがある。現在、ミラーン堰方式の砂吐き設置を検討中。その他は理想的な変化で非常に安定した。湾曲形で流水が河道中央に集まっている。低水位期の落差 1.9m（旧 1.3m、水量によって変化）、堰長 30～50m（旧 20m）、堰幅約 160m（旧 120m）。2017 年 3 月 17 日





長くなった堰幅。中洲の位置が、建設時よりも右岸側によりついている。堰もそれにつれて伸び、現在約 160m（河道の直角幅 85m）、全体に理想的な湾曲斜め堰の形に近づいた。左岸に堆積した玉砂利は（0.5～1.5 cm）小粒径でコンクリートに最適、各作業地に運ばれる。2017 年 3 月 17 日



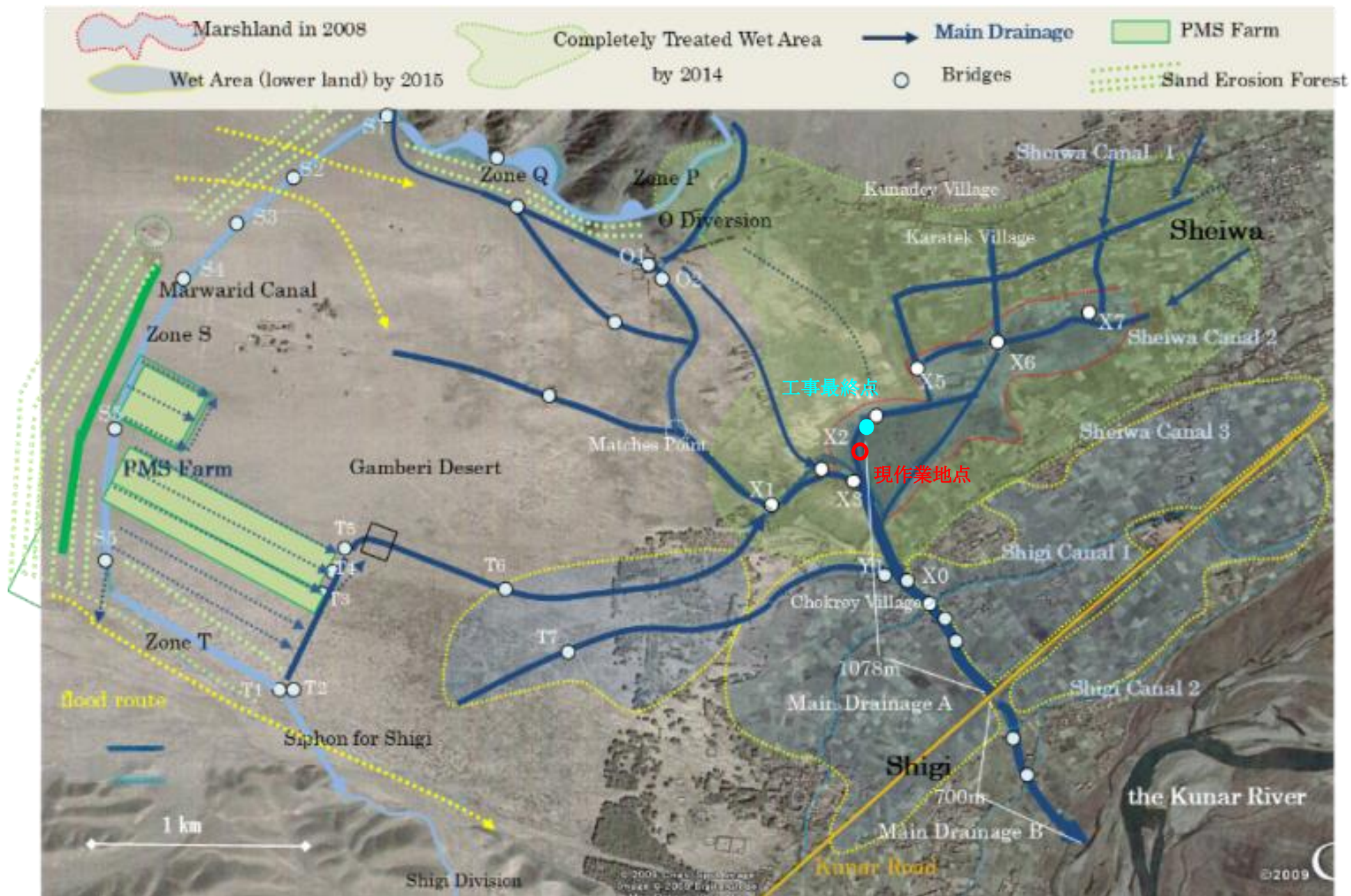


水門構造物基部の洗掘。砂吐きの閉塞によって堰を越流する水位が上がり、激しい流れが水門直下を洗掘、構造物を掩蔽する籠を吹き飛ばしたものの頑丈。今冬にミラーン堰方式の砂吐きを設置予定。とりあえずの応急処置を行った。夏期の流水の激しさを物語る。2017年3月20日





ガンベリ排水路。終点に近づいています！ 昨年3月から膨大な物量と人員を投入し、大物が片づきかけています。ガンベリ開拓の布石は成りつつあります。小さな仕上げは結構残っていますが、もう時間の問題だと見ています。





旧湿地（シギ・チュクレイ村下流）からの排水口造成。約 800m地点。最後まで湿害が残っていた領域。湿原が小麦畑に変わっている。2017 年 3 月 16 日





歩道橋。約 450m地点。まだ兩岸の蛇籠壁が置かれていない。2017 年 3 月 16 日





着工直後の上記写真と同一地点。この時の水位より更に 1.5m下がっている。2016 年 4 月 3 日撮影





約 400m地点の水道橋（シギ分水路 2）。古い施設の改修を行ったもの。2017 年 3 月 16 日





排水路終点（工事始点）。ここでクナール河に戻る。対岸がコーティ村。2017年3月16日





カチャラ村から搬送された石材で籠を組んでいる。石材は硬くて美しく、籠が映える。組み方はアフガン方式で、籠の四囲に壁を巡らして固定、中に屑石を詰める。作業員は全て周囲の農村からで、ここでも村落の人口が急増している。大半はパキスタンからの帰還らしい。若者が多い。2017年3月16日

